

# 北齋研究所 第13回研究発表会のお知らせ

令和3年7月

北齋館では、北齋研究所研究員による1年間のまとめの研究発表会を、下記により行います。

大勢の皆様のご聴講をお願いしたいところですが、新型コロナウイルス感染防止のため、次のようにさせていただきます。宜しく願いいたします。

- ◎ 聴講ご希望の予約は取りませんが、会場は先着順で、30人程度とさせていただきます。
- ◎ ご入館は検温とマスクの着用をお願いします。また熱や咳などの症状がある方はご遠慮ください。
- ◎ 聴講は無料で館内の企画展も観覧できます。発表内容の『研究紀要第13集』（1,000円）を発刊しました。
- ◎ 会場:北齋館 映像室

| 日時                  | 発表者               | 発表内容  |
|---------------------|-------------------|---|
| 7月10日(土)<br>午後1時30分 | 竹内 隆<br>北齋館副館長    | 「上町天井絵に新説」と番組(5/29 テレビ東京・美の巨人「怒涛図」)で紹介された内容についてもお話しします。<br>紀要題は小布施祭屋台天井絵から考える北齋晩年の信仰(二) |
| 7月10日(土)<br>午後2時20分 | 市村 勝巳<br>小布施町公民館長 | 古代における小布施の開発について<br>—今までの研究及び調査結果を中心に—<br>小布施扇状地の開発を、用水と埋蔵文化財から考える。                     |
| 7月10日(土)<br>午後3時10分 | 中山 幸洋<br>北齋館学芸員   | 北齋館所蔵の北齋肉筆画に見る模様<br>北齋館所蔵の肉筆美人画「柳下傘持美人」をはじめとして、着飾った着物に描かれた模様について、それぞれの特色を見た。            |
| 7月17日(土)<br>午後1時30分 | 市川 正夫<br>長野大学教授   | 小布施と栗<br>—なぜ小布施が栗の町と呼ばれるようになったのか—<br>小布施を全国的に知らしめた栗について改めて論じた。                          |
| 7月17日(土)<br>午後2時20分 | 若林 美歩<br>北齋館学芸員   | 『新累(カネ)解脱(ゲダツ)物語』考<br>曲亭馬琴作、葛飾北齋画の読本であるが、馬琴が参考にして創作したと思われる他の原典と比較検討した。                  |
| 7月17日(土)<br>午後3時    | 金田 功子<br>高井鴻山研究者  | 北齋画 上町と東町の祭り屋台考<br>—上町祭り屋台天井絵の裏書は高井鴻山—<br>天井絵の裏書は鴻山が記したことを筆跡等により証明した。                   |

北齋館新収品「北齋筆『上山喜兵衛像』」の紹介(館長安村敏信)と、学芸員 荒井美礼「西洋に渡った『北齋漫画』とジャポニズムの食器セット「セルヴィス・ルソー」についての調査・考察」は、研究紀要による発表とさせていただきます。

一般財団法人 北齋館 〒381-0201 小布施町大字小布施 485

TEL: 026-247-5206 FAX: 026-247-6188 E-mail: [info@hokusai-kan.com](mailto:info@hokusai-kan.com)